

言葉で感じる季節



しゅんきょう



春のうきうきとした楽しい気分のことを「春興（しゅんきょう）」と言います。

新芽が萌え出し、花が咲き、生命が躍動を始める季節の言葉。

「何か良いこと起こりそう...*」

そんな気持ちになりますよね。

わけもなく心を浮き立たせてくれる春の季節。

畑のねぎたちも、なんだか楽しそうに見える

のは、春の陽気なパワーかな？

二月下旬、寒暖の差が激しい日々もあと少し。春を迎え、暖かい日が続き畑のねぎたちの成長がぐんぐんと進みます。楽しんでください。



空の色、身体を撫でる風、日増しに春の訪れを感じる京都。あと1ヶ月もしないうちに訪れる卯月、新しい農人の仲間が加わる予定。この時期は気持ち的にもわくわくします！

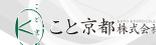
古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことわざだより

NO.166

2021年3月号

TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP 4A



今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

冬を越えて、いざ、春葱のお届け

昨年9～10月頃、最も忙しい時期に定植を行った、亀岡市・京都市の圃場で育ったねぎをお届けしています。

年末にかけて被覆をし、外の寒さから大事に守られたねぎです。

しかし今回は寒波の影響もあり、霜で被覆の中のねぎも全て折れてしまい苦労することもありましたが、この度無事にお届けできることに。この時期は、1年間でも最も畑に長くいたねぎを収穫します。また、寒い期間を経験することにより、餡もたくさんつまった美味しい「春葱」をお届けできるので、春の訪れを感じて頂けたら幸いです。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信



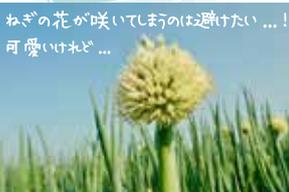
霜害を受けるほどの寒さから、一気に「春」の訪れ

今年の冬は、昨年・一昨年までの暖冬とうって変わって、冬らしい気候になりました。被覆も通常計画よりも多めに設置しましたが、その甲斐もなく、霜害を大きく受ける年になりました。ですが、2月から早くも徐々に温暖になってきて、そのタイミングで、ねぎに栄養を与えるために葉面追肥をたくさん行い、少しでも成長するように農人一同業務にあたりました。また、3月までに良い葱をお届けできると心配の中、生産コンサルの方たちと月に一度行われる圃場巡回で、その点についても診断をして頂いたりしました。

春の直前にねぎ坊主

今回、1月の寒さから2月の暖かさに移り変わったこともあり、2月初めには、ねぎ坊主が見られるようになりました。

例年と比べると、「もう出てきたの？」と農人一同少し驚いています。ねぎ坊主が増えると「葉が固くなりやすい」=「柔らかくて美味しい食味がなくなってしまう」ので、商品として使えなくなることも。ねぎ坊主が出てきた畑の管理・状態や収穫タイミングの見極めが、農人たちにとって、大事な仕事になってきます。



ねぎの花が咲いてしまつのは避けたい...！可愛いけれど...



立派な九条ねぎたち...と思っていたところ、ねぎ坊主発見。圃場見回り防化中！

ねぎ坊主と瓜ニ??

擬宝珠

京都の三条大橋に...